

特別教室「火星の地下基地100部屋をデザインしよう！」

日付：2016年5月28日（日）14:00-15:30

場所：はまぎんこども宇宙科学館

講師：新井真由美（NPO法人日本火星協会 理事）

報告：この教室では、火星とはどのような場所なのかを学んだあと、みんなで協力しながら“火星の地下基地100部屋”をデザインし、紙に描きました。

【第1部】では、火星についてクイズを交えて、科学的なお話をしました。

【第2部】では、絵本「ちか100かいだてのいえ（偕成社）」を聞きながら、もし、火星だったらどんな地下の部屋が欲しいか、想像をふくらましました。

【第3部】では、2030年を想定し、すでに火星に住んでいる先住民のえっちゃん*から、「●●の部屋がほしい！」というリクエストとともに、「火星への招待状」が一人ひとりに届きます。えっちゃんの希望の部屋を参加者一人一人工夫を凝らして描きました。魚の養殖場をおしゃれな水槽として描いた子、トイレ1つ1つに木を植えた子、公園にかわいいチョウチョを飛ばした子、学校の教室をリアルに再現した子、理科室に火星儀を描いた子、住み心地のよい部屋とキッチンを描いた子、野菜をたくさん収穫できる畑を描いた子などなど。ちなみに、日本火星協会の村川会長は、動物が観覧車に乗って楽しむ姿を観覧するユニークな美術館を描きました。お手伝いの大人たちも子供と一緒に、真剣に遊びました。（*えっちゃんとは、オランダの片道火星飛行MarsOneに日本人で唯一選考に残っている島袋悦子さんにちなんで命名）

撮影：村上祐資



チームは、くじで決め、石ころじゃんけんゲームで、“お金”となる石をやりとりしました。



真剣に基地をデザインする様子

チームで相談して選んだ石ころでじゃんけんゲーム！

ひとり一人に届いた 火星への招待状



クイズの様子



撮影：安濃由紀

石ころじゃんけんゲームで石を班ごとに選んでいる様子



NPO法人日本火星協会のイベント実施メンバー



「ものづくりチーム」が描いた火星の地下の部屋の作品の一例